



元気を失ったとき 2

2009/10/11

度重なる不幸に見舞われた女性

- 飢饉を逃れるため隣国に移り住んだ一家
 - 夫＋妻(ナオミ)＋2人の息子たち
- 最初の不幸：夫の死
 - 幸せ：2人の息子たちの結婚
- 次の不幸：2人の息子たちの死
- 帰国の決意
 - 息子たちの妻との別れ
 - 1人は残り，1人(ルツ)は一緒に行くことに

失意の帰国

- ナオミは言った。「どうか、ナオミ(快い)などと呼ばないで、マラ(苦い)と呼んでください。全能者がわたしをひどい目に遭わせたのです。出て行くときは、満たされていたわたしを主はうつろにして帰らせたのです。なぜ、快い(ナオミ)などと呼ぶのですか。主がわたしを悩ませ、全能者がわたしを不幸に落とされたのに。」

ボアズのルツに対する好意

- ルツはボアズの畑で落ち穂を拾い始めた
 - 「落ち穂拾い」は、律法に記されている、社会的弱者のための福祉制度
- ルツに好意を抱いたボアズ
 - ボアズはルツのことを知り感心していた
 - ボアズはルツを大事にした
- 喜ぶナオミ
 - 「生きている人にも死んだ人にも慈しみを惜しまれない主が...」

[ルツの結婚]

- ルツを嫁がせようとするナオミ
 - 収穫祝いの夜にルツをボアズのもとに行かせる
 - 法的な手続きをすることを約束したボアズ
- ナオミの土地を買い上げ、ルツと結婚したボアズ
 - 自分よりもナオミに近い親戚を説得して
 - 与えられた男の子

回復された祝福と希望

- 女たちはナオミに言った。「主をたたえよ。主はあなたを見捨てることなく、家を絶やさぬ責任のある人を今日お与えくださいました。どうか、イスラエルでその子の名があげられますように。その子はあなたの魂を生き返らせる者となり、老後の支えとなるでしょう。あなたを愛する嫁、七人の息子にもまさるあの嫁がその子を産んだのですから。」

【元気を失ったとき】

- 神への疑問とうらみ
- 主は助けを備えられる(不思議な方法で)
 - ルツ・ボアズ
- 主は決して見捨てない
- 主は復活の神である
 - ルツの子オベドはダビデ王の祖父
- ナオミの祝福は彼女だけではなく、まわりの人々をも励ました